

もくじ

- 02 ふるさと昔ばなし  
ひと・まち輝き  
「小多田三区自治会」
- 04 [特集]  
官学地域連携事業によるまちづくり  
～地域を活性化する新しい風～
- 08 街かどReport  
リポーター：山本幸子さん(川北)
- 10 TOWN TOPICS まちの話題
- 12 市政レーダー 篠山市発… 人権
- 17 健康ナビ
- 18 はぐくみ  
教育NOW・わくわくKID'S  
ほくとわたしの作品らんど
- 20 Living Information Smile

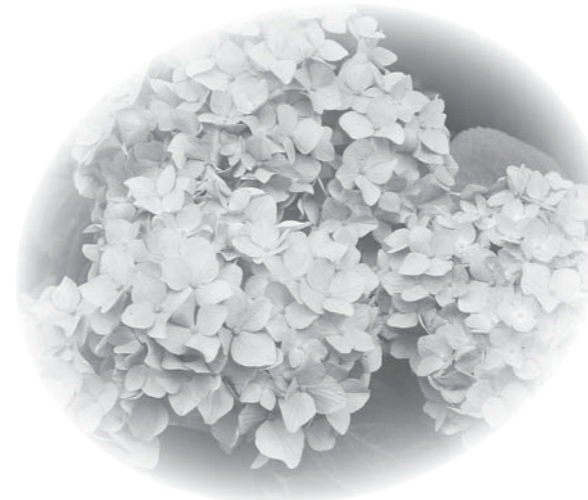
※カレンダーは、はずしてご利用ください。

**人のうごき**

平成19年4月末現在 (前月比)

人口	46,435人	(-41人)
女	24,238人	(-16人)
男	22,197人	(-25人)
世帯数	16,302世帯	(+24世帯)

ホームページ <http://www.city.sasayama.hyogo.jp/>  
電子メール [e-mail@city.sasayama.hyogo.jp](mailto:e-mail@city.sasayama.hyogo.jp)



## ふるさと昔ばなし

### 国鉄篠山線～先人たちの努力に感謝～

国鉄篠山線は、昭和19年から昭和47年までの28年間、現在の篠山駅から福住地区までの約17kmを運行していた路線です。停車駅は、「ささやまぐち」(大沢)、「ささやま」(北)、「やかみ」(八上上)、「たんばひおき」(日置)、「むらくも」(向井)、「ふくすみ」(福住)の6つ。

わたしは、昭和17年から始まった同路線の敷設工事に参加し、昭和20年から昭和28年までは、同路線の機関士として働いていました。このころ自動車はほとんどなく、モクモクと煙を出して走る蒸気機関車が主要な交通機関として大きな役割を果たしていました。そのため、朝晩に運行する列車は乗客であふれていたことを覚えています。

まだ蒸気機関車が走り始めたところで、めずらしかったころのこんなエピソードがあります。篠山線の敷設工事の際、工事現場にきていた蒸気機関車のバックで走る姿を見て、当時の小学生が石炭を積んでいる方を前だと思い込み、その姿を絵に描いたそうです。この話を聞いてわたしは、思わず笑いました。

現在では、国鉄篠山線は廃線となり、その面影もあまり残っていないため、その存在を知らない方もたくさんおられます。しかし、国鉄篠山線の盛衰やJR西日本福知山線の複線化など、まちの交通機関の歴史は、まちの発展の歴史でもありました。その発展の陰には、先人たちの知恵と努力があったことを、わたしたちは忘れてはならないと思います。

投稿 吉良金三さん(油井)



廃線となった国鉄篠山線の「むらくも」駅跡付近で当時を懐かしむ吉良さん

※このコーナーでは、地域にまつわるユニークな昔話を紹介します。ふるさとの懐かしい思い出話や言い伝えなどを教えてください。

市民の皆さんの投稿をお待ちしています。

■問い合わせ 秘書広報課広報係 ☎552-5112

## ひと・まち 輝き



5月13日に行われた「緑化大賞」受賞記念披露宴に参加された小多田三区自治会と関係者の皆さん

## 「水と緑のふれあい公園」を整備し 都市との交流をスタート

### 「緑化大賞」を受賞

地域の公園を整備することで、地域の活性化を目指されている小多田三区自治会(松本登喜雄自治会長・40世帯)。同自治会では、平成16年度から、この「水と緑のふれあい公園」の整備を計画的に進められています。平成18年度には、第17回「緑のデザイン賞」(財団法人都市緑化基金・第一生命保険相互会社主催)で、「緑化大賞」を受賞。自治会の皆さんが取り組まれようとしている、緑豊かな自然と人とのふれあいを育むための公園整備の計画が高く評価されました。この受賞により緑化助成を受け、同自治会の公園整備の取り組みは大きく前進しました。

### 公園整備の取り組み

同自治会が公園整備に取り組みしたのは、平成14年の台風で、公園にあった地域のシンボルのあずまやの屋根が壊れたことがきっかけ。何とかしてあずまやを修復したいと思

### 「小多田三区自治会」

いから、老朽化した公園をどのように活用していくのかを模索され始めました。そして、平成16年度にあずまやの修復を自分たちの手で行われたことを契機に、公園整備を中心とした地域づくりを展開。「自分たちでできることは自分たちです」という思いで、自治会の皆さんに公園整備についてのアンケートを行った。先進地への視察に行ったり、公園周辺の緑化整備をしたりと、さまざまな活動を続けてこられました。

ほかには、兵庫県の補助事業やアドバイザーの派遣事業なども有効に活用。中でもまちづくりアドバイザーの横山宜致さん(兵庫丹波の森協会・専門研究員)が提案された公園を中心とした地域づくりは、同自治会が目指す地域づくりの核となる考え方で、横山さんの参加は、日ごろの活動や「緑化大賞」の受賞にも、大きな助けとなったそうです。

### パン焼き窯の完成

今年の4月には、公園整備計画の



「水と緑のふれあい公園」に完成したパン焼き窯から、焼いたパンを取り出す自治会の皆さん

目玉であるパン焼き窯が完成。5月13日には、「緑化大賞」の受賞を記念して式典や披露宴が行われ、パン焼き窯で焼いた手作りのパンを食べながら、お互いの親ほくを深められました。今後、このパン焼き窯を利用して、都市と農村の交流を積極的に行い、その活動拠点として公園を活用される予定です。

松本自治会長は「この公園にたくさん人が集まり、木を育て、花を飾り、パンを焼き、楽しい思い出を刻んでいけるといいですね」と話されます。続けて「パン焼き窯を利用した活動と併わせて、黒豆の収穫やサツマイモ掘りなどの取り組みを行うことで、都市部の皆さんに来ていただき、交流を深めていきたいですね」と元気に話されます。最後に「公園整備は今後も続けていきます。そして、これからがコミュニケーションづくりのスタートですよ」と、受賞の喜びとこれから始まる人と人との出会いに期待を寄せられていました。